

投 稿 規 定

1. 本誌の目的

本誌は公益社団法人岐阜県理学療法士会(以下、本会)の機関誌として、理学療法及び関連領域における研究と報告症例検討、その他の活動記録などを掲載するものである。

2. 原稿の種類

1) 「研究論文(原著)」

論理的かつ明確な構想に基づき、自分自身の研究結果をまとめて、ある結論を与えたもの。

2) 「症例報告」

特殊な問題を持つ症例の臨床経験や臨床問題についての報告と考察をおこなったもの。

3) 「調査報告・実践報告」

臨床研究において調査した事例に対し、ある程度の見解を持ち、それをまとめたもの。

3. 投稿者・執筆者の資格

原則として筆頭執筆者は本会の会員に限る。しかし、特に本会に寄与する論文であれば会員外の投稿も受理する。

4. 投稿条件

投稿論文は、他誌に発表または投稿中の論文でないこと。また、本会が定める執筆規定に従って作成すること。

5. 投稿承諾書

著者の論文への責任および著作権譲渡の確認のため、別紙の投稿承諾書に自筆による署名をして提出すること。

6. 利益相反

利益相反の可能性のある事項(コンサルタント料、株式所有、寄付金、特許など)がある場合は本文中に記載すること。なお、利益相反に関しては厚生労働省の指針(註1)に従うこと。

7. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、本会に属する。また、本誌に掲載された論文はオンライン公開される。

8. 研究倫理

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的配慮に関する記述を必ず行うこと。また、原則として厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(註1)などの医学研究に関する指針に従うこと。倫理審査を受けて了承されている場合は承認番号を記載すること。

9. 投稿論文に対する査読

投稿された論文(依頼原稿を除く)に対して、査読審査を実施する。査読者は複数名とする。

10. 原稿の採択・加筆・修正等

原稿の採否、掲載順は、採択の決定は査読者の意見を参考に学術誌出版部で決定する。執筆規定に沿わない場合、投稿論文の加筆、修正、削除等依頼することがある。また、学術誌出版部編集担当の責任において、多少字句の訂正をすることがある。

11. 連絡先

1) 原稿送付方法

投稿論文は Word ファイルにて作成したものであり、E-mail にて送付する。Word ファイルの名称は「氏名:表題」を記載する。

2) 送付先およびお問い合わせ先

〒500-8281

岐阜県岐阜市東鶉2丁目92番地 岐阜保健短期大学 リハビリテーション学科内

(公社)岐阜県理学療法士会 学術局学術誌出版部

岩島 隆

TEL: 058-277-3808(直通)

E-mail: gifuptagaku5008384@yahoo.co.jp

註1: <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>

附則 2017年11月1日 実施

2018年7月13日 改訂

執筆規定

1. 論文の書式

- 1) 論文はMS Wordにて、ページ設定はA4版、1行50字、1ページ45行、余白は上下25mm、左右19mmとする。
- 2) フォントは、日本語は「MS P明朝」、英数字は「Century」に設定し、「表題」は14point、「要旨」、「はじめに」などの項目名は11point、所属・氏名を含む本文は10pointとする。
- 3) 「題目」、「要旨」は1段組み、本文は2段組みとし、行間設定は「1.5」行とする。
- 4) 文中の項目分けにて数字を用いる場合は、大項目を「1.」「2.」「3.」…とし、以後関連内容を「1)」「2)」「3)」…⇒「①」「②」「③」…と表記する、ただし、オートコレクト機能は使用しないこと。
- 5) 句読点は、全角「、」と「.」で統一する。本文中のカッコは半角にて表記する。ただし、英字の場合は半角「,」と「.」にて表記する。

2. 論文の構成

- 1) 表題:内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。用語は本文を用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。原則として略語・略称は用いない。
- 2) 著者名:著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。
- 3) 要旨: [目的], [方法], [結果], [考察], [結論]について、300字程度で簡潔に記載する。
- 4) キーワード:表題および要旨より3語抽出し、不十分な場合は本文から補充する。日本語または英語で表示する。
- 5) 本文:
 - ①はじめに (序論, 緒言)
研究の背景, 臨床的意義, 研究の目的, 取り扱っている主題の範囲, 先行研究との関連性の明示などを記述する。
 - ②対象および方法
用いた研究方法について第三者が追試できるように記述する。倫理的配慮も記述する。
 - ③結果 (成績)
研究で得られた結果を、本文および図表を用いて記述する。データは、検証や追試を行いやすいように配慮する。
 - ④考察 (分析)
結果の分析・評価, 今後の課題などを記述する。
 - ⑤謝辞
著者資格に該当しない研究への貢献者, および助成金受給については謝辞に記載する。
- 6) 文献:本文の引用順に並べ、当該箇所の右肩に一連番号をつける。番号は片カッコ半角英数字の上付きとする。

3. 原稿の既定分量

要旨, 本文, 文献, 図表を含み2頁以上とする。(特に制限は設けない)

4. 図表

図・写真・表:図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつけ、挿入位置は本文の右欄外に指示する。グラフィック表現及び写真は図に含める。図は下部に図1, 2のようにタイトルを記し、表は上部に表1, 表2のようにタイトルを記し、必要がない限り表の縦罫線は記載しない。フォントはゴシック体もしくはそれに準じるものとする。図表中に略語を用いている場合は、いずれも原語を図表の下の説明欄に明記すること。

5. 文献

引用文献(参考文献)は、本文の引用順に並べる。引用文献(参考文献)の著者氏名が3名以上の場合は最初の2名を記載し、3名以降は「他」, 「, et al」とする。雑誌の場合は著者氏名, 論文題目, 雑誌名, 西暦年号, 巻, 頁(最初-最後)の順に記載し、単行本の場合は著者氏名, 書籍名, 編集者名, 発行所名, 発行地, 西暦年号, 頁を記載する。文献名の省略は米国国立医学図書館の方法に従うこと。電子書籍の場合は著者名, 引用した章, 書名, 版, 編集者名, 発行所名, 発行地, 出版年, <URL>, 最終確認日。を記載する。

〈例〉

- 1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程 - Ten Step Test を用いて - . 理学療法学, 2008; 35: 35-41.
- 2) Tompkins J, Bosch PR, et al: Changes in Functional Walking Distance and Health-Related Quality of Life After Gastric Bypass Surgery. Phys Ther. 2008; 88: 928-935.
- 3) 信原克哉: 肩 - その機能と臨床 - (第3版). 医学書院, 東京, 2001; 156-168.
- 4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th edn, Morrissy RT, Weinstein SL (eds), Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006; 97-112.
- 5) 愛知県臨床検査標準化協議会: 呼吸機能検査の実際. 愛知県臨床検査標準化ガイドライン: 呼吸機能検査における手引書(第1版), 愛知県臨床検査標準化協議会, 2014, <<http://www.aichi-amt.or.jp/wp-content/uploads/fa9236f3adbe91bb0fd80bcb78985ead.pdf>>, 2016-12-21.
- 6) Carroll RL: The shoulder. Essentials of orthopaedic surgery, 3rd edn, Wiesel SW, Delahay JN (eds), Springer, Washington DC, 2007, <http://dlia.ir/Scientific/e_book/Medicine/Surgery/RD_701_811_Orthopedic_Surgery_/051821.pdf>, 2016-12-21.

6. 数量の単位

単位は原則として国際単位系(SI 単位)を用いる。長さ:m, 質量:kg, 時間:s, 温度:°C, 周波数:Hz 等とし, 原則環境依存文字は使用しない。

7. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

8. 機器名の記載

機器名は, 「一般名(会社名, 製品名)」で表記し, 統計ソフトは「製品名, バージョン番号」とする。

附則 2017年11月1日 実施

2018年7月13日 改訂

